

高等学校 公民科

1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

- ・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得
 …それらを生きて働かせてどう使うか、どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか
- ・「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成
 …単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、その解決に向けて構想したりする学習の一層の充実
- ・主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成、現代社会に生きる人間としての在り方生き方の自覚の涵養

目標の改善

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な**公民としての資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

学習内容の改善・充実

- ・共通必修科目としての「公共」を設置し、選択履修科目として「倫理」及び「政治・経済」を設置。
- ・日本と世界の生活・文化の多様性の理解や、地球規模の諸課題や地域的な諸課題の解決について、時間的・空間的な多様な視点から考察するグローバル化への対応。
- ・持続可能な社会の形成、産業構造の変化。
- ・主権者教育において重要な役割を担う教科として、選挙権年齢の 18 歳への引き下げ、財政や税、社会保障、雇用、労働や金融といった課題への対応。
- ・少子高齢化等による地域社会の変化などを踏まえた教育内容の見直し。

内容の取扱い等

- ・学習内容の順序について
 例：「公共」の内容 A、B 及び C については、この順序で取り扱うものとする。
- ・「公共」は原則として入学年次及びその次の年次の 2 か年のうちに履修させる。
- ・「公共」を履修した後に選択科目である「倫理」及び「政治・経済」を履修できる。

← 18 歳成年年齢引下げに対応

2 高等学校公民科における授業づくりのポイント

ポイント①：「社会的な見方・考え方」を意識した「問い」の設定

資質・能力の育成をめざした授業づくりをするためには、「社会的な見方・考え方」を働かせるようにどのような「問い」を設定するかを考えることが大切です。単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させ、思考・判断・表現を経て深い理解に迫ることが求められます。

「公共」の「人間と社会の在り方」についての見方・考え方

社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。



ポイント②：課題を追究したり解決したりする活動の充実

資質・能力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められます。主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、単元の中に生徒が社会的事象等から学習課題を見だし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、追究結果をまとめ、自分の学びを振り返ったり新たな問いを見出したりする学習活動を位置づけることが大切です。

	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
主な学習過程の例	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を設定する <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象等を知る 気づきや疑問を出し合う 課題意識を醸成する 学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> 予想や仮説を立てる 調査方法、追究方法を吟味する 学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> 予想や仮説の検証に向けて調べる <ul style="list-style-type: none"> 学校外での観察や調査などを通して調べる 様々な種類の資料を活用して調べる 他の生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する <ul style="list-style-type: none"> 多面的・多角的に考察する 話し合う（討論等） 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する <ul style="list-style-type: none"> 複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> 考察したことや構想したことをまとめる <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を振り返って結論をまとめる 結論について他の生徒と話し合う 学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返って考察する <ul style="list-style-type: none"> 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る 学習成果を学校外の他者に伝える 新たな問い（課題）を見出したり追究したりする

ポイント③：「社会的な見方・考え方」を働かせる資料の工夫

諸資料等から様々な情報を効果的に調べまとめることによって「技能」を身に付けるようにするだけでなく、諸資料等を基にして多面的・多角的に考察したり、考察、構想（選択・判断）したことについて資料等を適切に用いて論理的に示したりすることによって、「思考力、判断力、表現力等」も育成することを意識することが大切です。その際、新聞や公的機関が発行する資料等や博物館や資料館、図書館などの公共施設も積極的に活用しましょう。



3 高等学校公民科実践事例

単元(題材)の流れ

時間	主な学習内容・学習活動	学習過程
第1時	(1)平和主義の確立 (2)憲法第9条と防衛力の増強 (3)日米安保体制	
第2時	(4)平和主義をめぐる裁判 (5)平和主義と政府解釈	
第3時	(6)冷静終結と平和主義 (7)自衛隊の海外派遣 (8)日米安保体制の変容)	
第4時	(9)テロとの戦い (10)日本の果たすべき役割 (11)これからの安全保障体制	
本時 (第5時) ※ まとめ	○米朝首脳会談について、朝鮮戦争の経緯を踏まえ、その歴史的意義と今後の課題について考えよう。 ・与えられた資料や既習事項から現実社会の複雑な課題を把握し、国家及び社会の一員としてグローバル化する国際社会の課題について考える。 ・よりよい社会の実現のために現実社会の課題を主体的に解決しようとする態度を養う。	

深い学びを実現するためのポイント

社会科固有の見方・考え方を働かせる

「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向け構想したりする際の視点や方法です。公民科では「公共」「倫理」「政治・経済」と、各科目の特徴に応じて整理されました。

公民科における「社会科における見方・考え方」	
公共	人間と社会の在り方についての見方・考え方
倫理	人間としての在り方生き方についての見方・考え方
政治・経済	社会の在り方についての見方・考え方

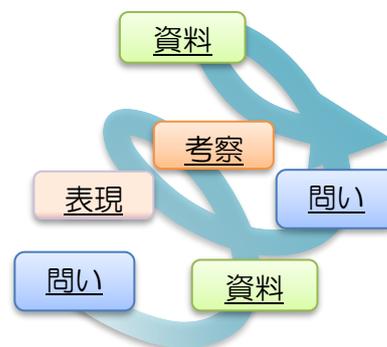
Point

見方・考え方を働かせるのは生徒！
 位置や空間的な広がり
 時期や時間の経過
 事象や人々の相互関係
 倫理・政治・法・経済 } 多様な視点で

生徒の思考・判断・表現が湧き起こる問いを積み重ねる

生徒のアクティブな思考・判断・表現を促すには「適切な問い」が必要です。

この実践事例では、毎時間「小さな適切な問い」を設定し、小さなステップを踏みながら、「米朝首脳会談について、朝鮮戦争の経緯を踏まえ、その歴史的意義と今後の課題について考える」という単元を貫く大きな問いに迫っていきます。



アウトプット活動により生きた知識・技能を定着させる

教員の一方的な授業では、生徒はたった一つの見方・考え方しか身に付けることは出来ません。しかし、この授業では、個人で、ペアで、グループで話し合い、考える機会が設けられています。生徒は互いの知識や意見、考え方に触れ、自分の考えと比較したり繋げたり、また新しい自分の考えを言葉や文章でまとめることで、社会的事象は様々な見方や意味があることを学び、同時に生きた知識・技能を身に付けることができます。

本時の指導計画

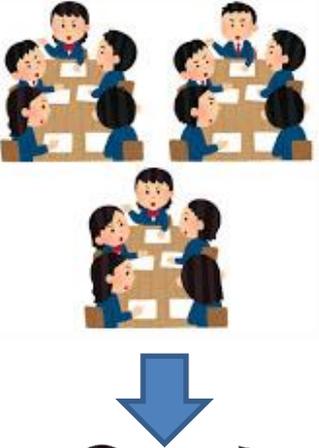
- ◆科目・学年 政治・経済 3年
- ◆単元名(題材名) 日本の平和主義と国際平和
- ◆学習指導要領との関連 内容B(1)現代の国際政治・経済
- ◆単元(題材)の目標

平和主義との関連において現代の日本を取り巻く安全保障上の課題に関心を持ち、他の生徒と協力しながら学び、今後の平和主義のあり方について認識を深める。今後の日本における安全保障と平和主義のあり方について考え、世界情勢の変化や憲法改正の問題も踏まえた上で判断し、自らの考えを表現する。

◆本時の目標

- ・平成30年6月の米朝首脳会談の歴史的意義と今後の課題を考える。[関]
- ・これまで学んできたことを踏まえて、21世紀の平和主義のあり方について問いを立てることができる。[思]

◆主な学習の流れ(5時間目/全5時間)

学習活動	指導上の留意事項
1 本時の学習内容を確認する	
米朝首脳会談について、朝鮮戦争の経緯を踏まえ、その歴史的意義と今後の課題について考えよう。	
2 ワーク1 グループ⇒個人 ○グループ内でワークシート内の4つの課題(朝鮮戦争・米朝の比較・米朝共同声明・最近の新聞記事)を分担する。 ○それぞれ分担した課題に個人で取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りとして、数名の生徒に「護憲論」「改憲論」のそれぞれの立場で記述した内容を発表してもらう。 ・6月の米朝首脳会談の様子を伝える新聞記事を提示し、歴史的な出来事であったことを確認する。 ・資料や他の生徒の意見を参考に理解を深めることが出来るよう、学び合いの時間を十分に確保する。
3 グループワーク2 グループ ○グループを越えて、同じ課題を担当する生徒が集まり、グループ内で発表、共有し課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの課題はそれぞれ関連するものであることを理解させ、グループ内での発表・共有が進むよう助言する。
4 グループワーク3 グループ⇒個人 ○元のグループで集まり、4つの課題を発表・共有し、ワークシートを完成させる。	
5 本時のまとめと振り返り ○単元のまとめとして、「21世紀の平和主義」について、各自で問いを立て提出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの考えが書けるよう支援する。 